

こども通信

新年明けまして

おめでとうござります

新しい二一世紀が、子どもたちにとって希望あふれる明るい時代であることを願っています。

穏やかな新年をお迎えるのことに思います。今年は一世紀の幕開け。私が小さい頃は、ずいぶん遠いことのように感じていました。そして、あらゆることが実現していく「夢の世界」を描いていました。



しかし、経済や産業は二〇世紀中にすでに飛躍的に発展し、人間は多くの「物」を手に入れました。その一方で、失っていった「心」も多かったのではないのでしょうか。二一

味で豊かな社会にしていくためのお手伝いをしていければと思っています。とりあえず、今年もまたよろしく願います。

世紀は、むしろ心を豊かにしていく時代・と感じています。新世紀の、おそらく最初の四半世紀は、私もまだ小児科医として仕事を続けられるでしょう。この時代を、本当の意

ご希望の方へは引き続き接種しています。ポリオ予防接種は、主に昭和50年、52年生まれの方に任意で行っています。ワクチンの用意の都合で日程をきめて実施していますので、ご希望の方はご連絡下さい。

今年のご予定
上越市の予防接種(麻疹、風疹、三混、日脳)
火、金 午後1:30~2:30
月、火、木、金 午後4:30~5:00
乳幼児健診、任意の予防接種
毎週木曜 午後1:30~2:30
院長出務
上越市乳幼児健診 10、24、31日
上越保健所未熟児健診 16日
高田家庭裁判所調査官研修会 17日
「子どもの心をどうとらえるか?」
有線放送「健康ライフ」20日朝6時-
「冬の病気/インフルエンザなど」
FM-J「あつまれ元気っ子」(当院提供)
毎週水曜午後4:35~(76.1MHz)
10日下綱子保育園・長浜保育園、17日有間川保育園、24日桑取保育園・下正善寺保育園、31日五智保育園

塚田こども医院
上越市栄町 2-2-25
TEL(0255)44-7777
FAX(0255)44-8456
時間外090-3333-4388
E-mail tsukada@kodomoiin.com
ホームページ http://www.kodomoiin.com/

事故予防のヒント
寒い時期、ストーブなどのつけたまま、乳幼児だけを残して外出するのは危険です。火の元の確認は厳重に! 消火器などの用意も。

「こども通信」をFAXでお送りします
情報センター (0255) 44-5959
BOX番号 7777
「オンフック」でダイヤルし、音声メッセージに従って下さい。(機種により操作に違いがあります。)

感染症情報

先月(12月)は、心配していたインフルエンザはまだ流行しませんでした。しかし、散発的な患者さんの発生はありましたし、例年、1月の後半には必ず流行するものですので、十分にご注意下さい。

現在は嘔吐下痢症(ウイルス性胃腸炎、吐き下し)と水ぼうそう(水痘)が流行しています。とくに嘔吐下痢症は家族や園などで数日のうちに次々とかかってしまうことがあります。これから春先まで続く感染症です。水ぼうそうも感染力が強く、ちょうど2週間の潜伏期をおいて症状がでてきます(今は、特效薬といえる内服薬があるので、軽くてすむようになりました)。

このほかでは、溶連菌感染症、おたふくかぜ(流行性耳下腺炎)も目立ちます。はしか(麻疹)や風疹はありませんでした。

3学期が始まると、子どもたちの間でいろいろな感染症の流行がおきてきます。十分な休養と栄養、手洗いやうがいなどを実行して下さい。

当院から [感染症情報] を毎週お伝えしています 0255-44-5959 情報番号5555 (無料) FM-J(エフエム上越76.1MHz)=金曜13:30~ 上越有線放送=月曜18時~

インフルエンザの話

「インフルエンザは普通の風邪じゃない」というキャッチフレーズどおり、何から何までが全く違います。

全身症状/脳炎・脳症

まず症状は、極めて短時間のうちに(数時間くらい)、寒気を伴って急激に高熱になります。とても体がだるく(倦怠感)、全身の関節痛、筋肉痛も伴います。「具合が悪く、ぐったり」。とてもつらくて、大人でも動くのが難儀です。

乳幼児医療費のその後

今月から老人医療費が原則1割負担になります。診療所では「1回800円、月4回まで」の定額制も選択できるため、実質的には1回あたり530円から800円への負担増になりました。

新潟県の乳幼児医療費助成制度は、この老人負担と同じ額と決められているため、心配していましたが、今年度中は530円を維持することになりました。来年度(4月以降)どのような制度になるかは現在検討中とのことです。

昨年の県知事選挙では、制度の拡充を公約にしており、思い切った改正を大いに期待しています。今年こそ「日本で最低の水準」「子どもに優しくない知事」の汚名を返上して下さい!



一方で、普通の風邪には多い咳や鼻水は、とくに最初は見られません。そして、高熱が数日は続き、「寝たつきり」で過すことになってしまいます。

普通の大人でも起きられなくなるくらいですから、乳幼児や老人などはとっては大変に重い感染症だということを理解していただけたらと思います。実際、老人の場合は、インフルエンザをきっかけに命を落とすことも、けつしてまれではありません。

さらに、小児科医が恐れているのは、乳幼児の脳炎・脳症の発生です。日本では年間数百人の子どもたちがかかっているようで、半数近くは死亡してしまっています。インフルエンザの発熱直後に、けいれん、意識障害、繰り返す嘔吐などがあれば、一刻を争っての対処が必要です。(原因はまだよく分かっておらず、なぜか世界中で日本にのみ多発しています。)

伝染力はとても強く、数日のうちに発病します。家庭や園・学校などでひとたび患者の発生があると、すぐに全体の流行につながります。

検査は、その場ですぐに診断できる物が開発されました。(当院は全国的

な調査を依頼されていますので、保健所へ提出する検査をさせていただくことがあります。ご協力をお願いします。)

新しい治療薬/熱さましに注意

治療はここ数年、ずいぶん変わってきました。ウイルスを殺す(増殖を抑える)「特効薬」ともいえる薬を使えるようになったためです。昨シーズンからシメトレルという内服薬があります。これはA型のみに効きます。

今シーズンは、A型、B型の両方に効く薬が登場する予定です。(吸入薬のレンザ、内服薬のタミフル。小児への適応はありませんが、タミフルの小児用製剤は、最近アメリカでの使用が認められ、次のシーズンには日本でも使えるようになるかと期待しています。)

インフルエンザにかかったときには熱さましを注意して使う必要があります。15歳未満の患者さんには使用禁止です(現在、日本ではアスピリンは熱さましとしては使用していません。類似薬は、当院ではPL顆粒PA錠、エルエルシロップに入っているインフルエンザの流行期には原則として使用しません)。また、一部の効果の強い熱さましは、脳炎・脳症の経過を悪化させる

おそれがある
と指摘されて
います(ボン
タール、ポルタ
ン)。



安全とされ
ているのはア
セトアミノフェンで、働きは弱いですが、この薬を中心に熱さましを使っていくこととなります(当院では内服のカロナール、坐薬のアルピニー)。

漢方薬は寒気、だるさといった、「西洋薬」ではカバーしきれない症状に効果があるため、よく用いています(麻黄湯葛根湯など)。

やっぱり予防接種を

予防としては、あらかじめワクチン接種を受けておくことが一番。あとは、規則正しい生活、バランスのとれた食事、手洗いやうがいなど、一般的なことに気をつけて下さい。また、流行期には、あまり人混みに行かないことも大切です。インフルエンザの流行は、ひとたび始まると、「燎原の火」のように一挙に拡大します。いろいろな「感染症情報」を参考にして下さい。